

第六期長期策定委員会 傍聴者アンケート
第7回実施分（平成31年1月15日開催） 自由記載欄
【傍聴者 14名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。 ※傍聴者10名記載

<p>・多様な市民参加が計画されており、今後の展開が楽しみになりました。</p>
<p>・LGBTとSOGIについての所で、その概念について、ていねいに確認されていたこと。1つの言葉でも、そのとらえ方や認識の仕方が違うと、まちがった方向に行ってしまうのでとても大切だと思いました。</p>
<p>・委員長の議事進行が大変良い。 ・市民公募委員が11人中2人で少ないのではないかと？ （5名程度は必要ではないかと？）</p>
<p>・「小中一貫校」をめぐる経過を反映した討議要綱に、という議論は大切だと思いました。「参考資料等」に、1ページ程度で、No.8として加えてはどうか。</p>
<p>・毎回、傍聴していて、委員の方々の熱心な討議にとっても刺激を受けています。熱い思いが詰まった討議要綱を、市民がしっかり読んで、意見交換会に参加しないと、と思いました。 ・第三期学校教育計画策定委員会で「多様性を力にする教育」とあり、疑問でしたが、「多様性を認め合う教育」に方向転換できると、より武蔵野市らしい教育が築けるのではと思いました。</p>
<p>・小中一貫教育が武蔵野市では行われなくなったということは、良いと思いました。実際、市内の中学生の何%が私学へ行っているのか、行こうと考えているのかが知りたかった。（40%以上ではないかと思う）</p>
<p>・無作為抽出について、「10年後」とありますが、「10年後」だけでなく、「20年後、30年後」についても意見交換してもらおうほうが良いのではないのでしょうか。</p>
<p>・人生100年時代、高齢者の数は増えますが、健康寿命も大幅に伸びています。高齢者が、市政と地域の「お客様」ではなく、ともに当事者として地域をつくっていくことを眼目として入れて頂きたいと思います。それは、コミュニティの問題、そして、様々な市民活動(NPO～)、介護、子育て、障がい分野etcの分野をこえ、つなげたようなイメージを提示できませんか。</p>
<p>・武蔵野市らしさ、武蔵野市の特徴に基づいて作成された長期計画になっていないと、市民に分かり難いし、実感しづらい。地域で使っている言葉、歴史的な言葉、地域名、施設名、イベント名などを使って、身近な、具体的な表現を増やした方がよいと思います。</p>
<p>・緑の保全で「質と量」についてふれられていたが、もつともで、量だけあればいいわけではない。武蔵野市の生物多様性を考えると、ここで質について、玉川上水を軸としたエコロジカル・ネットワークを中心に生物多様性に配慮した計画が必要。</p>

その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 ※傍聴者9名記載

<p>・用語説明にある「インクルーシブ教育」ですが、障害者権利条約24条では、場を分けないことを言っています。ですので、24Pにある「～支援学級、支援教室・通常級における～」とある所が変わってくると思います。これは日本型インクルーシブ教育システムのことを指すので、条約にそったインクルーシブ教育を進めてください。通常級のあり方が変容する必要があるということになると思います。</p> <p>インクルーシブ教育は、すべての子供にニーズがあることを前提として、通常の学級で合理的調整(配慮ではなく、調整が正しい)をしながら学ぶことを言うと思います。</p> <p>*一般意見4号も参照してみてください。</p>
<p>・25P 5) 農業の振興と農地の保全:</p> <p>①都市に近い近郊農業の付加価値のある、最新技術を投入した農業を推進していくべきでないか(大学との連携で、ex 東京大学、東京農工大、東京農大) 例 農業工場、無菌環境工場等</p> <p>②相続に伴う農地減少への対応は至急しないと手遅れになると思われる。</p> <p>③市議会各会派の意見交換は会派別ではなく、26名を2つに分けて各会派が入るようにする。自分の会派のみの意見で、他の会派の意見を聞いていないと議会で同じ様な議論がされ、非効率である。</p>
<p>・(市民ワークショップ)グループ討議には、「討議要綱案」を作った、策定委員会や事務局からも参加すべきだと思います。(ファシリテータの役割だけでは、要綱案の説明補足や質問には答えられないから)。意見のグループや全体でのまとめはやらない方法をとって下さい。</p> <p>・市民討議の方法は長年変わっていないし、一部の市民に固定しがちである。「計画案」討議に向けては、少し検討されてはいかがでしょうか。</p>
<p>・子ども意見交換会はやらないのでしょうか。</p> <p>武蔵野市の中高生は大人以上に豊かに考えて、意見を出したりしています。(小中一貫教育検討委員会アンケート報告書等参照) 中学校生徒会代表や、あるいはプレイスに集う子どもたちなど、せっかくの「市民参加」の機会なので、ご検討いただければ嬉しいです。</p>
<p>・コミュニティ(センター)(協議会)のあり方と、生涯学習(社会教育)との関係と、今後のあり方について、計画に書きいれてほしい。</p> <p>・財政援助出資団体の統合と自立化を、長い間課題にされてきたが、全く実現されていない。実現するスケジュールを書きいれてほしい。</p>
<p>・33Pの「①健全な財政運営」で「多大な費用負担が見込まれる」とあるのに対して、歳入については具体策があるが、「歳出面」では具体策が何もないのは極めて残念に思います。</p> <p>「人件費、物件費、その他」などについて、何をどうやってどのくらい減らすといった計画をつくってもらい、示してほしい。</p>
<p>・緑の種類は様々であり、それぞれに合わせた育み方があります。例えば雑木林は10～15年サイクルで伐採し再生させています。武蔵野市の雑木林は75年間伐採されていませので、健全に育まれているとは言えません。27P 6) 緑の保全・創出・活用の中には、「本市には、雑木林等の歴史的な緑、公園緑地の樹林、街路樹等の様々な緑があり、それぞれ特性(質)が異なるため、緑の成り立ちや特性に合わせた保全管理を行っていく」という一文が必要です。</p>
<p>・(4)2)「良好な環境」が何を指しているのかタイトルからは読み取れない。きれいな空気かと思いました。</p> <p>・(4)7) 森林環境譲与税は、温室効果ガス対策なので(4) 3)に書き込むべき。</p>

- ・(4)1)エコプラザで多様な環境啓発を行うのは良い。ごみ等それぞれについて(4) 2)以降で取り上げられているが、生物多様性だけがない。生物多様性については啓発だけおこなって武蔵野市内では実際には何もしないのか？ こういうことも長期計画では書くべき。
- ・(4)6)「歴史的な」「住宅地の」「公園緑地等の」「民有地の」と、緑をカテゴライズしているが、具体的な緑がどれに属するのかわからない。市民農園の緑は？ 街路樹は？ 雑木林は？ 千川上水は？ 結局、緑は、それぞれ求められる役割が異なるので、こんなふうひっくるめて緑を取り扱うのは無理。
- ・(4)には生物多様性を豊かにする施策がない。(4)1)で生物多様性の啓発を受ける必要があるのは、この計画を作っている人たちではないか？ 特に、一向に(4)6を改善しない事務局。
- ・(4)での緑がひどい。五長調では樹林というカテゴリーがあったが、それすら無くなっている。武蔵野市は市内の緑に対して真面目に向き合う気があるのか？
- ・(4)6)公園の維持管理について記述があるが、長計で日常メンテのことを書くのはいかなものか。もつと夢のある公園計画とか書くのが長計なのではないか？
- ・(4)5)上と同様で、街路樹の日常メンテの話は長計にいらぬ。
- ・改めて、市民会議の報告書を読み直すと、市民目線のリアルな意見がある。討議要綱に載せればよいのにという事もある。結局、討議要綱は職員意見でできていると感じる。策定委員は市民会議の報告書について一つずつ取り扱いを検討したのか？ でなければこの報告書を作った意味はない。市民ワークショップ等も同様。
- ・COP10において「愛知ターゲット」が採択され、地方公共団体における計画に生物多様性への配慮を組み込むことをご存知だろうか？ まち生物多様性への配慮はSDGsの個別目標の達成に寄与することをご存知だろうか？ 世界的な動向も考慮するべき。(4)1)にはSDGsが書き込まれている。

28P 6)緑の保全・育成・活用についての意見

- ①「武蔵野の雑木林」は歴史的に定着した用語であり、「武蔵野といえば雑木林」ともいわれます。にもかかわらず、武蔵野市は、五期長期計画(調整計画)を含め、なぜ雑木林という用語を入れることを拒むのでしょうか。特別な意図があるのでしょうか。武蔵野市固有の緑を大切にするため、武蔵野という名を冠した本市は、武蔵野らしい緑という視点を前面に出し、雑木林を重点のひとつにすべきです。他市の方が「武蔵野の雑木林」という用語を用いて雑木林の保全に取り組んでおり、武蔵野市は恥ずかしいと思わないのでしょうか。いいかげんに目を覚まして下さい。
- ②28P 2)の1行目
「残されている歴史的な緑」とありますが、これでは何を言っているのかわかりません。具体的に「——歴史的な緑(雑木林、農地、屋敷林など)」と書くべきです。
- ③27P 1)の3段落目で、生物多様性の啓発を行うと言っているのに、肝心の行政が行う施策事業を書かないのはおかしいです。28P 6)で「生物の環境に配慮した緑の保全を行う」と書くべきです。とくに公団緑地は市が直接管理できるわけなので、6)の2段落目にそれを明示すべきです。
- ④28P 7)で市外の森林についてここまで詳しく書くのはバランスに欠けているのではないですか。というよりも、むしろ多摩地域の森林について書かれていることを、足もとの市内の森林(雑木林も森林です)についてこそ書くべきです。たとえば、6)で「雑木林を健全に育成するとともに、市民がその自然と触れあい、その資源の利活用・公益的機能の充実を図る」とか、「市内の緑の自然環境を健全に育成するとともに、市民が自然と触れあい、緑の資源の利活用・公益的機能の充実を図る」などと書き込むべきではないのでしょうか。

- ⑤総合的にみて、市は生物多様性基本方針をせっかく作ったのに、28P 6)で、自然とか生態系とか、生物多様性の観点が全くないのは異常です。ぜひ考え直してください。
- ⑥25P 6)で、学校教育活動を支援補完する社会教育活動とあるが、この認識はまちがっています。社会教育は社会教育法にもとづき、学校教育以外の組織的な教育活動を包括する概念です。昨年12月に出された中教審答申でも学校との関係にとどまらず、地域づくりを学びの側面が支える重要な領域であることが確認されています。また、学校との関係でいえば、文科省としては支援ではなく協働という視点を打ち出しており、地域学校協働活動を推進しています。これらのことから、25P 6)の2段落目は「学校教育活動と協働で地域教育力を高める社会教育活動」とすべきではないでしょうか。社会教育は学校教育のたんなるサポーターではありません。
- ⑦市民の学びが市民自治、行政への市民参加、ひいては地域づくりを支える土台となることは明らかなです。上記中教審答申、武蔵野市市民活動促進基本計画などでも、その点が書かれています。つまり、コミュニティづくり、地域づくりのために果たす社会教育の役割はとても大きいのです。上記中教審では「学ぶと活動の循環」という用語でこのことを表現しており、本市の五期長計・調整計画でも、34Pで「参加と学び」の循環と表現しています。以上のことから、『「学びと活動の循環」を生み出す社会教育を推進する』という表現をぜひ書き込んで下さい。
- ⑧生涯学習とは、学校教育や社会教育での学びを含む、生涯にわたる学習です。文科省もこのとらえ方を明示しています。したがって25P 6)2段落目の「部活動の生涯学習化」という表現は意味不明です。再考してください。

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)